

季刊・オーディオ アクセサリー

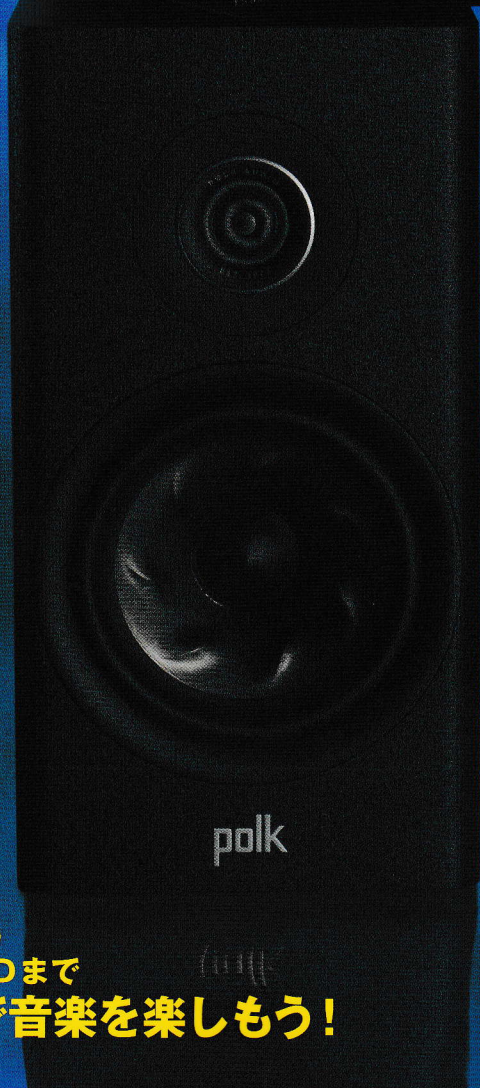
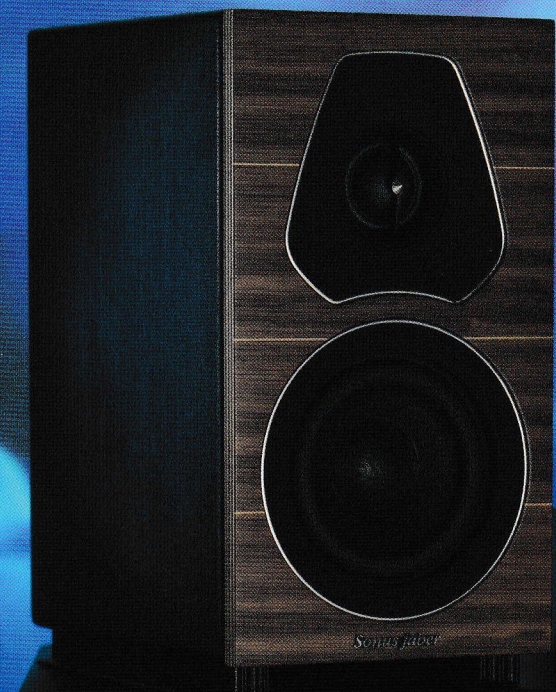
Audio Accessory

2021 AUTUMN 182

この秋も、巣ごもりオーディオ三昧、

土方久明監修

スピーカーを 10万円で 買う!



サブスクから
レコード、CDまで
いい音で音楽を楽しもう!

9人の評論家が自作する

電源ケーブル 選手権 2021



A A誌の注目記事は
WEBでも楽しめます!

SONO ACUSTICA

スペインの高級オーディオケーブルブランド

日本上陸

Virtuoso Series

XLR Cable

導体：金銀特殊合金単線

端子：銀メッキ銅

端子ボディ：ハンドクラフト銀メッキ真鍮

標準価格：¥2,772,000 (1.0m)



Virtuoso Series

Speaker Cable

導体並びに端子部：金銀特殊合金単線

端子ボディ：ハンドクラフト銀/金メッキ真鍮

標準価格：¥6,369,000 (1.5m)

MUSICAL EXPRESSION BEYOND EXPECTATION

eilex

アイレックス株式会社 Tel: 042-312-2887

Web: www.eilex.jp

E-Mail: info@eilex.jp



FONO ACUSTICA
ARMONICO

スピーカーケーブル (左奥)
¥3,212,000 (2.0m ペア / 税込)
¥4,114,000 (2.5m ペア / 税込)
¥5,027,000 (3.0m ペア / 税込)

RCA ケーブル (左中央)
¥968,000 (1.0m ペア / 税込)
¥1,243,000 (1.5m ペア / 税込)
¥1,507,000 (2.0m ペア / 税込)

FONO ACUSTICA
ALLEGRO

スピーカーケーブル (右奥)
¥836,000 (2.0m ペア / 税込)
¥957,000 (2.5m ペア / 税込)
¥1,089,000 (3.0m ペア / 税込)

FONO ACUSTICA
ALLEGRO

RCA ケーブル (右中央)
¥539,000 (1.0m ペア / 税込)
¥693,000 (1.5m ペア / 税込)
¥847,000 (2.0m ペア / 税込)

XLR ケーブル (右手前)
¥616,000 (1.0m ペア / 税込)
¥770,000 (1.5m ペア / 税込)
¥924,000 (2.0m ペア / 税込)

アクセサリを超えた至高の世界

前人未到の領域に足を踏み入れる スペインのハイエンドブランド、日本初上陸

スペインの超高級ケーブルブランド「FONO ACUSTICA」が日本に初上陸する。海外のハイエンドブランドからも高い信頼を得るこのブランドの特徴は、導体に“銀”採用していること、そして宝飾品を思わせる贅沢で精巧な細工にある。ハイエンドにしか到達できない、至高のケーブル世界を堪能しよう。



FONO ACUSTICA ARMONICO

XLR ケーブル (左手前)
¥1,111,000 (1.0m ペア / 税込)
¥1,452,000 (1.5m ペア / 税込)
¥1,804,000 (2.0m ペア / 税込)



出てくる音の全てが生の感触に満ち溢れている

Text by 井上千岳
Chitake Inoue
Photo by 田代法生

金銀合金の単線を導体中使用 究極を追求する高級ケーブル

フォノ・アコースティカは珍しいスペインのハイエンド・ケーブルで、2008年にフェリックス・アヴァロスという人物によって設立された。同氏はオーディオ愛好家で、理想的なケーブルを求めて得られず、ついに自ら会社を起すに至ったのだという。

ここまでは珍しい話ではない。そして大概はうまくゆかないものである。しかしフェリックス氏の場合はそうではなかった。すでに欧米では超絶的なケーブルとして強く注目されているという。

おそらくそれは、採用した手法が並みのものではなかったためであろう。線材、それもただの銀線や高純度銅線ではなく、金銀ないし銀銅の合金という徹底した手法を果敢にも選択したのである。異例とも言える価格はここから生じているに違いないが、妥協を排したのが成功につながったのだ。シリーズは3つあるが、ミドル

クラスの ARMONICO (アルモニコ) とベーシックな ALLEGRO (アレグロ) から国内導入されるという。

まずはベーシックなアレグロ・シリーズ。銀と無酸素銅の合金による単線で、絶縁はテフロンと空気。外被はアクリルコートでグラファイバーとしている。

試みに、という程度でまず CD プリ間を XLR で接続。ところがそれだけでも圧倒的に出方が違う。音場がそこに広がるようなリアリズムがそこら中に充満している。音がいいとか悪いとかという次元の話ではない。よくも悪くも、ともかくそこに見える。ちょっと普通の出方ではない。

これは大変なことになった。そこで接続をパワーアンプまで拡張して改めて聴いてみた。パロックの瑞々しい手触りと満洒で流麗な響きが、そのままそこで鳴っているように見える。聴こえるというより見るといふ方が正しい。音場も一緒に見えてくる。ピアノは完全にそこに楽器が出

現している。音色とか表情の変化とか、そういったものに特別な違いがあるわけではないのだ。けれども何もかもが違う。出てくる一音一音が全て生の感触に溢れている。大げさではない。本当なのだ。

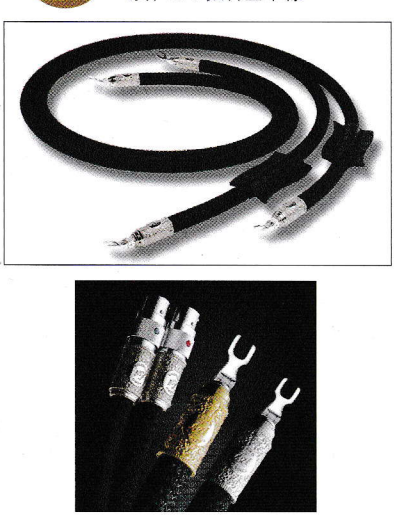
マドリガルでもその観を強くする。何が違うのだろうか。ただ信号を崩さずに伝えること。それが完璧にできているからこういう生の感覚が出てくるのに違いない。

オーケストラはダイナミズムの幅が桁外れに広がり、トゥッティの強烈なフォルテも位置感が見えるようになった。信号の流れがいつそうスムーズになって起伏が驚くほど大きい。だからリアリティが倍ぐらい違うのである。

それではスピーカーケーブルまでフル接続するのだろうか。と、これは……CD が全て音になったようなイメージがある。位置感や空間性に加えて、音色や質感が生なのだ。パロックではこれで全てが調ったという印象が強い。ピアノではもつとそうで、さつき全体像がで上がったのが、今

フォノ・アコースティカ 主要ラインアップ

トップモデル VIRTUOSO
導体: 金+銀合金単線



VIRTUOSO の端子部。時計職人の手による精巧な銀細工も特徴

ミドルクラス ARMONICO
導体: 金+銀合金単線



ARMONICO シリーズの全ケーブルにはアフリカンハードウッドのインシュレーターが付属する

ベーシック ALLEGRO
導体: 銀+銅合金単線



精密なオリジナルのプラグを採用。⊕⊖はコネクタ根元に埋め込まれた宝石の色で判別する

【ARMONICOシリーズ共通】●導体: 金+銀合金単線 ●ハンダ: 100% 純銀 ●絶縁: テフロン+空気絶縁 ●インシュレーター: アフリカンハードウッド (RCA-XLR) ●端子: ロジウムメッキ (スピーカー) ●極性独立構造 ●端子: 24K 金メッキ OFC
 【ALLEGROシリーズ共通】●導体: 銀+無酸素銅合金単線 ●絶縁: テフロン+空気絶縁 (RCA-XLR) ●端子: ロジウムメッキ (スピーカー) ●端子: 24K 金メッキ OFC ※いずれもスピーカーはバナナ/スベードを選択可能
 ●USB、デジタル(S/PDIF)、LAN、フォノ、ジャンパー、アースケーブル等もラインアップ ●取り扱いアイレックス(株)

“音楽がそこにある”と信じられるものでなければなりません

—FONO ACUSTICA ブランドの背景について教えてください

Felix FONO ACUSTICA は2008年に設立されました。私は2年間の研究開発の末、最初に「アルモニコ」シリーズを完成させました。その音を聴いたときに、これは間違いなく「これまでにないハイエンド・オーディオケーブルに違いない!」と確信したのです。それがブランドの始まりでした。

—フェリックスさんのこれまでのキャリアについて教えてください。

Felix 実は私は電子工学とコンピューターサイエンスの学位を持っています。また音楽は子供の頃から大好きでしたが、これまでさまざまなオーディオケーブルを聴いてきた中で、“音楽の真髄に迫る”と思えるケーブルに出会うことができませんでした。ですから、自分でケーブルブランドを立ち上げることにしたのです。

—FONO ACUSTICA のケーブルの特徴は金や銀、銅を使った合金を導体に使用することにありますね。

Felix 全ての導体は、固有の導電率を持っています。私たちは金属を混ぜ合わせその比率を研究することで、有機的であり、自然な音質を実現できたと考えています。あくまでも聴感を頼りに、この合金の比率を決定しています。

—FONO ACUSTICA のケーブルは軽く取り回しがしやすいことも特徴と感じました。

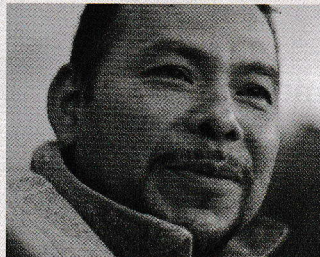
Felix 製品は私達のオリジナルで、中身の詳細をお話することはできません。ただ、たとえばアウタージャケットは、ほつれが発生しにくい、熱処理とアクリルコーティングされた編組グラスファイバーで、使いやすさにも配慮した製品となっています。

—製品開発において最も重視していることはなんですか?

Felix あくまでサウンドです。“音楽がそこにある”と信じられるものでなければなりません。聴感上の感覚、次いでデザインを重視しています。

—VIRTUOSO のコネクタはとても精巧で惚れ惚れします。

Felix 実はこれ、南スペインの高級時計彫刻職人に特別に作ってもらったものなんですよ!



FONO ACUSTICA

Founder

FELIX AVALOS

度はそれが生きて呼吸をしているようなりアリズムを感じるのである。表情の陰影、強弱のデリカシーを聴いていると、それがより強く感じられる。同じ強弱のつき方でも、聴こえ方が違うのだ。マドリガルは音場がより遠くへ引いている。その分手前側での空間的な実在感が強まり、ホールの天井が見えるような広さを感じる。オーケストラは全員が床に足着けた感覚だ。空間の全てが揃ったということかもしれない。ダイナミズムの広さ、瞬発力の強さなどあらゆる面で生の触感がする。

さらに次元の高い実体感と肉質的な温度感に到達

アルモニコは金銀合金の単線。同社の場合種類に応じて最適径を決定するので、何ゲージという決まりはないそうだ。絶縁と外被はアレグロと同様。ただしハンダは100%銀という。要するに純銀溶接ということなのかもしれない。またアフリカンハードウッドのインシュレーターが装着されている。

—ここでも同じ手順で、まずCDからパワーアンプまで接続した。そこから出てくるリアリズムは

さらに次元の高いもので、最初から出発点が違うようにも思われる。バロックはもつと実体感がはつきりして質感にも肉質的な温度感がある。オーボエの出方が特にそうだが、弦楽アンサンブルも抜けのよさと潤いの豊かな歯切れの良さが違いを見せる。

ピアノは中・低域が厚い。弱音でも音が痩せず、また余韻もかき消されずにしつかりと残る。このためディテールの彫りが深く、楽器の存在感が高まるのである。

マドリガルは一音一音の立ち上がり先ほどよりもつと深い。表情がそれだけ濃密になる。

オーケストラは立ち上がりの瞬発力が生きる。壮絶というほどダイナミズムが大きくフォルテが峻烈だ。弦楽器のアンサンブルがいつそう美しく、各楽器の流れがどこもはつきりと冴えている。

そして最後はスピーカークーブルまで含めたフルセットである。このリアリティにはもう言葉がない。ホールそのものが見えてくるし、楽器それぞれがまた実体感に富んでいる。CDが丸ごと3次元になったようなイメージだ。

—バロックはオーボエの表情がきめ細かく、息遣いがまるで言葉のように感じられる。弦楽アンサン

ブルも彫りが変化に富んで生き生きとしている。

ピアノはさらに落ち着きを加え、一音一音が会話のように表情に富む。ピアノ自体から音が直に出ているという印象が強い。

マドリガルの生々しさは限界に近い。ホールで聴いていればこういう風に聴こえるだろうというそのままで、これほど音が見えることもめつたにない。

オーケストラは凄絶そのもので、また壮麗でもある。エネルギーが後から後から湧き上がってきた際限がないくらいだ。弱音部ではホールの空間が明瞭に感じられるし、トゥッティのフォルテはその空間いっぱいに充滿してはちきれそうにさえ感じる。手を伸ばせば触れられそうなくらいの生々しさだ。

—実に驚き入ったケーブルである。常識を超越している。おそらくアンプやスピーカーを換えても、こういう音は出ない。だとすればそれらのコンポネントと同等もしくはそれ以上の効果をもたらすものということになる。それならこの価格も決して法外と言うものではない。長くケーブルを聴いてきたが、こういう思いを持ったのは初めてと言っている。